



『第九代ウェルグレイヴ男爵の捜査録』エマ・ジェイムソン 著 吉嶺英美 訳

第9代男爵にして、ロンドン警視庁の警視正——
最高にダンディな主人公ヘザリッジ卿、こんな人なんです。

- ①パーティ途中で呼び出され、タキシード姿&高級車で現場に直行!
- ②署内でも、常に伝統の英国風朝食を用意 (もちろん銀ポット付)
- ③たとえ犯行現場だろうと、レディ・ファーストは忘れない。
- ④社交界に顔がきくのを生かした、独自の捜査方法。
- ⑤恋愛遍歴は多々あるようだが、もうじき還暦を迎える今も独身貴族。

その他、美人なののがさつな若い女刑事、マザコンぎみのアジア系部下、ヘザリッジの捜査を助ける『社交界の生き字引、な有閑マダム……』と、揃いも揃って濃いキャラクターだらけ。NYタイムズベストセラー納得の1作です!

『否定と肯定 ホロコーストの真実をめぐる闘い』デボラ・E・リップシュタット 著 山本やよい 訳

12月8日劇場公開! 法廷で“歴史”を争う——
実際にあった前代未聞の法廷闘争のすべて。

著者の歴史学者リップシュタットは、現代ユダヤ史とホロコースト学を教える大学教授。そんな彼女にとって、「ナチスによる大量虐殺はなかった」とするホロコースト否定者の主張は、「プレスリーは生きている」のと同じくらい、ばかばかしいものだった。ところが、名のある歴史家アーヴィングがその説を主張しはじめ、彼を批判したリップシュタット自身が反対に名誉毀損で訴えられてしまう。彼女は自分の名誉を守るため、「ホロコーストがあった」ことを法廷で証明しなければならなくなった。本書は実際にあった裁判のすべてを記した回顧録である。緊迫した裁判、弁護団の驚きの戦術、胸に突き刺さるホロコースト生存者たちの声——。重厚な物語のなかで、著者は重ねて「歴史家はさまざまな解釈が許されるが、それは“事実”に基づいていなければならない」と言う。現代では、誰もが自分の意見を言う権利があり、インターネットを通じて多くの意見を知ることができる。その一方、根拠のない情報が容易に“事実”として支持される可能性もある。本書は現代社会の危険性を改めて考えさせてくれる。(編集部N)